

# 戸田市 事務事業評価 《事後評価シート》

事務事業名	37604 在住外国人支援事業													
担当組織	市民生活部					協働推進課					担当	市民交流担当		
組織コード	R2	13	04	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	01	13	01	03	記入日	令和 2年 6月24日
	R1	13	04	00		R1	01	02	01	13	01	03		

## 1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	07 人が集い心ふれあうまち	● 対象  ○ 対象外
分野	05 国際交流・国際化・国内交流	
施策	80 市内在住外国人への支援の充実	
事業期間	平成23年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	関連計画 施政方針	戸田市多文化共生推進計画
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの	
対象	市民	
事業目的	市民と市内在住外国人が、お互いの文化に対する理解と、交流を深めることによって、共に地域のまちづくりを担う仲間になり、お互いの心がふれあう、多文化共生の理念を持った、住みやすいまちになることを目的とする。	
事業内容	(公財) 戸田市国際交流協会を中心に、市内在住外国人への支援を行い、多文化共生社会を構築するための事業を展開していく。在住外国人が日本での生活を円滑なものにするための日本語教室や困りごと・生活相談、在住外国人と地域住民が交流できる国際交流サロン等、多種多様な事業を実施し、つながりを広げていく。	
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 ( 国際交流協会 )	

## 2. 実施結果

事業の 予算・実績			令和元年度 執行額 (千円)	令和2年度 予算額 (千円)	令和3年度 計画額 (千円)	令和4年度 計画額 (千円)	令和5年度 計画額 (千円)	
	事業内容		在住外国人の支援等、多文化共生事業	在住外国人の支援等、多文化共生事業	在住外国人の支援等多文化共生事業	在住外国人の支援等多文化共生事業	在住外国人の支援等多文化共生事業	在住外国人の支援等多文化共生事業
事業費		17,058	23,531	22,365	23,531	23,531	23,531	
財源内訳	国庫支出金	0	2,505	2,505	2,505	2,505	2,505	
	県支出金	0	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	12	12	12	12	12	
	一般財源	17,058	21,014	19,848	21,014	21,014	21,014	
人件費		5,067.52	6,574.08	6,574.08	6,574.08	6,574.08	6,574.08	
投入人員	常勤職員	0.74人	0.96人	0.96人	0.96人	0.96人	0.96人	
	非常勤職員	0人	0.8人	0.8人	0.8人	0.8人	0.8人	
事業費+人件費		22,126	30,105	28,939	30,105	30,105	30,105	
目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	在住外国人が参加する交流事業数	回	在住外国人が参加する各種行事及びイベント等		93	85	85
	活動②					78	63	-
	成果①	各種行事及びイベントに参加した在住外国人の人数	人			806	604	600
	成果②					524	497	-
目標達成状況の分析		C：活動・成果ともに達成できなかった。 <判断理由> 戸田市多文化共生推進計画に基づき、(公財) 戸田市国際交流協会において、日本語教室や相談業務等の外国人支援事業をはじめ、外国語講座等の多文化共生推進事業を実施している。市としても広報やSNS等により協会や主催事業の周知を進めているものの、協会自体の認知度が未だ低く、行事等参加人数が伸び悩んでいる。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により中止となった事業もあり、交流事業数についても目標を達成することができなかった。						

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 国際交流協会が主体となり、ボランティアを活用して事業を実施しており、相互理解と交流の促進として様々な事業を展開している。目標の達成はできていなかったが工夫して事業を実施しており、施策に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 事業の大半はボランティアの協力を得て実施されていることから、経費は必要最小限にとどめている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	A	B	<判断理由> 国際交流協会が主体となり、ボランティアを活用した委員会組織による企画・立案を経て、事業を実施しており、事業方法は適正であると考えられる。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 事業の実施に当たり、参加料を徴収しており、受益者負担については公平と考える。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	平成30年度に策定した戸田市多文化共生推進計画に基づき、多文化共生施策を計画的に推進し始めた。計画の推進に当たり、策定時の委員で構成された戸田市多文化共生推進市民会議を設置し、計画の進捗管理や課題の検討等を行っている。また、令和元年5月に戸田市と公益財団法人戸田市国際交流協会との協議等に関する協定を締結し、これまでに以上に連携できる体制づくりが構築された。
見直しの効果	多文化共生推進計画に基づき、庁内各課や（公財）戸田市国際交流協会等の関係機関と連携することにより、多文化共生意識の醸成が図られてきている。市民会議では、外国人市民や外国人支援に関わる委員からの意見を聴取し、概要版を作成して市民への多文化共生の周知を図ることができた。また、市と協会との協定により、団体の運営に関し協議を行うことで、市の方向性をより伝えることができてきている。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input checked="" type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 外国人市民が増加傾向の当市の状況にあつて、市内在住外国人の生活を円滑にし、地域住民との交流を図ることによって、多文化共生社会を構築することは重要となっている。平成30年度に戸田市多文化共生推進計画を策定し、令和元年度から計画的・総合的に多文化共生推進施策を推進し始めている。また、計画の推進に当たり、外国人市民も委員となっている多文化共生推進市民会議の意見を聞きながら、より一層の国際交流協会との協力・連携体制を確立し、引き続き、多文化共生施策を推進していく。
今後の取組方針	外国人市民が増加傾向にある中で、多文化共生推進計画を計画的に推進していくために、進捗状況の確認や庁内への多言語化の強化など、多文化共生意識の醸成を進めていく必要がある。特に、多文化共生の中心を担う国際交流協会とは、在住外国人を含む市民によるボランティア育成等、今後も協力・連携しながら実施していきたい。